

## 第3回第2期夕張市総合戦略検証委員会の結果等について

夕張市総合戦略検証委員会

### 1 日時

令和6年2月（書面により開催）

### 2 検証結果

第2期夕張市総合戦略（以下、「総合戦略」という。）登載事業の進捗状況、課題等について、検証委員会において市各課担当からの説明を聴取し、確認した。

令和4年度は第2期総合戦略の3年目であり、一定程度成果を上げている事業もあるが、複数年、事業を継続しなければ成果を得ることができない事業があるため、そうした事業については取組を着実に進めていくために、状況の変化に応じた取組内容の見直しを適宜行っていく必要がある。

### 3 質疑内容

【戦略1】：誰もが安心して暮らせる環境づくり

#### ①安心の地域医療体制の構築

委員発言：夕張の中核病院であるならもっと滝ノ上方面からでも行きやすい中心地に作ってほしかった。

市応答：夕張市の中核病院として、将来に渡り継続的に医療サービスを提供するためには、外部からの医師派遣が必要不可欠であります。派遣医を受け入れるためには知事の定める設置基準に基づき「へき地診療所」の指定を受けなければなりません。設置基準には近隣区域に医療機関がないことが条件とされており、既に民間の医療機関が存在している清水沢や紅葉山では、「へき地診療所」の指定が受けられないことから、既存医療機関のない若菜地区に設置しているところです。

委員発言：夜間休日の救急医療体制はまだ対応しきれていない面も多々見受けられるので、来年度以降の課題だと思う。

市応答：夕張市においては、平日夜間及び日曜日の日中は在宅当番医制により、その他は二次救急医療機関である市立診療所により対応しております。また、夕張市内においては、救急医療資源に限りがあることから、救急患者の状況に応じて、医師の判断により適切な医療が提供できる医療機関へ転送するなど、質の高い効果的な救急医療が受けられるよう努めているところです。

委員発言：皮膚科、眼科もあってほしいとの声が多い。

市応答：夕張市内においては、中條医院が皮膚科と眼科を診療科として掲げているところです。市立診療所では、皮膚科及び眼科の診察検査機器等がなく、派遣医を受け入れる体制が整っていないことから、設置は困難となっております。

委員発言：小児科の設置はやはり難しいのでしょうか。頼れる小児科が市内にないことは、子育て世帯にとって大変な負担となっている。

市応答：夕張市内においては、市立診療所と中條医院が小児科を診療科として掲げているところではあります。

#### ②若年層・女性向け低家賃賃貸住宅の整備

委員発言：子育て世代が住みやすい環境は充実させてほしい。

市応答：市内の公共賃貸住宅は、若年層・女性に限らず、住宅に困窮している方が低廉な家賃で入居することが可能な住宅です。今後、関係課と連携し、現状の民間賃貸住宅の入居状況を把握しながら、賃貸住宅建設費補助の必要性を検討して参ります。

#### ③子育て世帯向け住宅取得・リフォーム支援事業

委員発言：コンパクトシティから外れてはいるが、農業地域でも住宅の新築、リフォームの補助があると助かる。

市応答：現在、都市計画マスタープランにより骨格軸への誘導、また、立地適正化計画により居住誘導区域を設定し、持続可能なまちづくりを目指し、居住・都市機能の誘導を行っているところではあります。このことから、都市計画区域外での取組については、個別の政策として関係課で十分に協議して参ります。

#### ④情報発信強化による不動産の流動化促進

委員発言：空き家の情報発信は、需要があるなら続けてほしいと思う。

市応答：現在、北海道空き家情報バンクを活用しています。これまでの実績は、新規登録3件、成約が2件、現在紅葉山地区で1件登録されている状況です。また、現在行っている中古住宅取得補助においても、令和5年度5件の申請があったことから、市内の不動産の流通は図られていると考えられますので、今後も継続して参ります。

#### ⑤認定こども園等を活用した子育て支援体制の強化

委員発言：一時預かりが広がったことは助かっている。各地域から通園しやすい形を模索してほしい。

市応答：より良い形となるよう、様々な検討を行って参ります。

委員発言：市内の子育て支援体制について、より充実した事業を提供できるよう検討していく。

市応答：保育協会他各団体と連携し、事業の更なる充実を図って参ります。

## ⑥子どもたちの居場所づくり

委員発言：りすた等子供の遊び場として活用している家族も周りに多い。公園もあってほしいとの子育て世代からの声をよく聞く。

市応答：児童遊園のうち沼ノ沢児童遊園については今後も存続の方針となっているため、遊具の修繕等を行っております。りすた周辺エリアに関しては、今後の都市計画の中で公園も含めた整備を行っていくことになると思います。

委員発言：ゆうぱりっこ広場を利用する子どもたちが増え、とても良い環境が作られていると思います。

市応答：今後も更なる環境整備を進めて参ります。

## ⑦子育て世帯の経済的負担の軽減

委員発言：出会いの場を作る婚活事業にも目を向けてほしい。

委員発言：保育料に関しては数年前に比べてだいぶ良くなってきていると思う。

市応答：可能な限り保護者負担の軽減を図っているところです。

委員発言：近隣の市町村と比較しても、夕張市は子育て世帯に対し手厚い対応を実施していると思います。

市応答：今後も可能な限り保護者負担の軽減等に務めて参ります。

## ⑧高齢者の活動の場・居場所づくり

委員発言：ふれあいサロンや生活支援コーディネーター、生活支援サポーターはそういう場や人がいることで安心できる環境づくりに繋がっていると思う。

市応答：今後は高齢者福祉や介護予防の拠点である老人福祉会館も含め、引き続き高齢者の居場所づくりに取り組んで参ります。

## ⑨空き住宅となっている市営住宅を活用したグループホーム事業の推進

委員発言：グループホーム等の事業はこれからも進めていってほしい。

市応答：関係課と情報共有し、要望・必要性等があれば市営住宅の入居状況も考慮しながら、検討して参ります。

委員発言：市営住宅の目的外利用を農業や福祉の面で増えてきている外国人実習生の寮等への活用も考えていってほしい。

市応答：空家となっている市営住宅は、今後、計画的に用途廃止するものとなっています。

活用できる住棟については、再編事業により移転先として活用する予定ですが、外国人実習生の受入先として活用できる市営住宅があれば関係課と調整のうえ、検討していきたいと思っております。また、農業分野における技能実習生の一部は、市営住宅に入居したことがあります。なお、市営住宅の用途廃止後に要望があれば、老朽度・安全性等を考慮しながら活用について協議させていただきます。

## 【戦略2】：新たな人の流れ・関係人口・交流人口の創出

### ①地域資源を活用した交流人口の拡大

委員発言：交流人口の拡大はこれからの課題であると感じるので魅力発信を積極的におこなってほしい。

市応答：交流人口の拡大に向けた発信については、夕張市に興味・魅力を持っていただける情報はもちろん、トレンドを意識しながら魅力発信を行うことで、交流人口増加を図ってきたい。

委員発言：シューパロ湖で開催するイベントは、企画が斬新で魅力的である。ありきたりなイベントではなく、夕張にしかできないようなイベントを企画できたらいいかと思っております。

市応答：シューパロ湖は夕張市にとって貴重な地域資源となっており、今後も継続して来場者の増加につながる企画を実施し、市内周遊促進や地域経済の活性化を目指したい。

### ②産業遺産ツーリズム拠点としての「石炭博物館」「清水沢エコミュージアムプロジェクト」

委員意見：石炭博物館やミュージアムが本当に必要で事業として回っていくのかもよく考えながら進めてほしい。

市応答：石炭で栄えた炭都夕張の歴史を後世に残すことは大変意義深く、非常に重要であり、その歴史継承の中核施設が「石炭博物館」です。また、炭都の息遣いがいまだ強く残る清水沢エリアで運営されている清水沢エコミュージアムと補完しあうことで、相乗効果を生み、新たな人の流れ・関係人口・交流人口が創出できると考えられ、清水沢エコミュージアムを支援するプロジェクトも必要不可欠な事業であると認識しているところです。令和7年4月には模擬坑道が復旧し、産業遺産ツーリズムの拠点として石炭博物館がより一層期待されることから、今後は清水沢エコミュージアムプロジェクトと併せて、それぞれの役割を最大限発揮できるよう事業を進めていければと考えています。収益性を高める企画提案を検討し、市内経済にも良い影響を与える運営となるよう関係団体と連携していきたい。

### ③スポーツ交流等の促進

委員発言：小規模でもいいから宿泊施設及び温泉等の入浴施設があればもっと利用者が増えるのではないのでしょうか。

市応答：市内外問わず、市内スポーツ施設には多様なスポーツ利用者が多く訪れており、一

般観光客を含めて利用者の需要にマッチした宿泊施設及び入浴施設が開業できるよう、関係事業者との連携を深めていきたいと考えています。

#### ④道の駅の魅力向上

委員発言：夏場になると多くの方が道の駅を利用している姿が見受けられるので、道の駅としてはトイレの復旧は急務であると思う。

市応答：平成30年の胆振東部地震により破損した道の駅トイレ復旧は、大きな課題として認識しています。ご指摘のとおり夏の道内観光シーズン、夕張メロンの最盛期には連日多くの来場があり、駐車場が混雑しているほか、国道274号線に隣接しているため、冬期シーズンは、雪害による道路利用者の待機場所としても混雑する場面があります。そのため、道の駅として、道路利用者の利便性の観点からトイレ復旧を含めた施設の環境改善に向け、引き続き国と粘り強く交渉していきたいと考えております。

委員発言：多額の経費が掛かることなので、簡単にはいかないと思いますが、現在のメロードを今後も道の駅とするのであれば、もっと魅力的な施設にする必要があると思います。

市応答：夕張市の南の玄関口として、現在の道の駅夕張メロードは市としても重要な施設と認識している。運営している協議会と連携しながら、地域の活性化が図られると同時に、道の駅の役割を継続して果たせるよう魅力化を進めていきたい。

#### ⑤北海道及び他自治体との広域連携

#### ⑥関係人口の創出

#### ⑦つながりを築くふるさと納税の促進

委員発言：ふるさと納税は市としても大事な収入源になっていると思うので、有効な活用を地域と一体となって考えてほしい。

市応答：ふるさと納税によりご寄付いただいた寄付金は全額「幸福の黄色いハンカチ基金」に積み立て、毎年度、地域一体となった体制により策定された総合戦略に掲載している事業を中心に地域再生及び住民福祉の増進に必要な事業に対し必要額を取り崩しており、その活用状況については、前年度寄附者全員に報告書を送付するとともに市HPでも公開しております。中でも、市民団体に対し助成する「幸福の黄色いハンカチ基金助成事業」については、市内の学識経験者等による用途選定委員会を設置し、総合戦略の基本方針である「誰もが幸福に暮らせる持続可能なまち」に基づき、市民一人一人がわがまちに愛着と誇りを持ち、課題に向かって果敢にチャレンジする市民活動が相互連携する地域をつくるという目的に合致しているか審査の上、交付決定しており、ふるさと納税の有効活用を地域一体となって考えているものの一つであると認識しておりますので、こういった取り組みを継続して参るとともに、今後とも、企業版も含めた寄付獲得のために夕張市の取り組みを積極的にPRして参ります。

### 【戦略3】：地域資源を活用した働く場づくり

#### ①農業者、農協、市の連携による産地力強化

委員発言：現在生産力維持には外国人実習生が不可欠になっている現状があり、受け入れる環境づくりや住宅問題等市と生産者が連携して解決していきたい。

市応答：技能実習制度は、昨年11月に有識者会議から「人材確保と人材育成を目的とする新たな制度とするなど、実態に即した見直しをすること」が国に提言されたところです。こうした中で、他産業と遜色のない誰にとっても働きやすい環境を整え、農業を支える多様な人材の受け入れを推進するため、市としては今後も引き続き、生産者や農業関係機関・団体と連携していきたいと考えています。

委員発言：住宅の目的外利用を拡大することは出来ないのか。

市応答：市営住宅再編に伴う移転先としても使用することから、目的外利用の拡大については出来る限り調整を行いながら進めていきたいと考えています。

委員発言：労働者の確保ができない状況から、メロン農家の継続が困難であるということをよく耳にします。直近10年で25%も生産体制が縮小している現状に対し、具体的な取り組みや対策が示されていないのはなぜか。

市応答：メロン農家の継続に向けた課題の一つには労働者の確保が挙げられますが、市としては様々な要素が密接に関連しているものと認識しています。農業振興施策の推進にあたっては、昨年5月に「第14次夕張市農業振興計画」（令和5年度～令和7年度）を策定しており、①夕張メロンの安定生産とブランド維持、②多様な担い手等の確保・定着、③活力ある農村づくりの推進、④鳥獣被害対策の強化、の展開方向を示しています。

#### ②日本一の薬木生産地に向けた基盤整備

委員発言：食害問題はメロン生産にとっても課題であり、対策を市と地域で考えていきたい。

市応答：エゾシカなどによる鳥獣被害の防止に向けて、捕獲活動や捕獲人材の育成など総合的な鳥獣被害対策の確立を図るため、市としては今後も引き続き、生産者や農業関係機関・団体をはじめとした地域の方々と連携していきたいと考えています。

#### ③森林資源活用型の地域人材育成

#### ④ズリ山（石炭）を活用した稼ぐ防災事業の推進

#### ⑤誰もが活躍できる働く場づくり

委員発言：人数が集まれば地元で大型特殊、作業免許の資格の講習会を開催できたこともあったので、希望があればそういう会を開催すれば資格取得しやすくなると思う。

市応答：資格の種別がまとまっていれば、講師派遣が実現した事例（刈払い作業免許、チェーンソー講習など）は直近においても実績としてあったため、事業者より需要があった場合には相談が受けられるよう検討したい。

## ⑥障がい者の就労の場の確保

### 【戦略4】：夕張の未来を創るプロジェクト

#### ①小中高連携による郷土愛教育の推進

#### ②小中学生の可能性を伸ばすプロジェクトの創出

#### ③高校魅力化プロジェクトの推進

委員発言：どの地域も少子化で子供の数が減少している中、魅力化による入学希望者がどれほど見込めるのか。高校の存続より近隣の高校に通いやすい環境の整備を検討していく段階にきているのではないか。

市応答：これまで夕張市は、夕張の将来のためには地元で高校が必要と考え、総合戦略の主要施策として夕張高校魅力化プロジェクトに取り組んで参りました。令和5年度からは、全国募集を始めた夕張高校に市外から入学を希望する生徒の受入れ環境の整備に取り組んでおります。令和6年1月26日付けで発表された令和6年度公立高等学校入学者選抜の出願状況によると、夕張高校への出願者は26名（一般：25名、推薦：1名）となっております。地元進学率は66%（昨年度15名、45%）で市外からも1名出願があったところです。これはこれまでの取り組みが一定の成果につながってきたものと考えております。今後も、地元はもとより全国からも行きたくなる魅力ある高校づくりを目指して高校魅力化プロジェクトを推進して参ります。

#### ④未来技術を活用した地域課題への取組とデジタル人材の育成・確保

### 【戦略5】：持続可能なまちづくり（コンパクト化・拠点形成等）

#### ①コンパクトシティの推進

委員発言：拠点地域への機能、立地誘導はこれから先の夕張を考えると推し進めていってほしい。

市応答：拠点3地区（若菜・清水沢・紅葉山）への都市機能や施設の立地誘導及び土地活用（遊休土地を含む。）の促進に資するよう、用途地域や都市公園の配置など都市計画の見直しに関する業務を進めているところです。今後は、拠点地区への居住の誘導に資する施策等についても合わせて検討を進め、3地区の拠点づくりを進めていきたいと考えております。

委員発言：生産地域の道路や環境も同時に整備していただきたいと思います。

市応答：生産地区は、夕張の産業を支える地区として位置づけており、生産機能の維持・強化とともに、地域のコミュニティ機能の維持・充実、生活の基軸となる地区内の道路網の形成など生活利便性に関する生活環境の形成は重要であると認識しております。具体的な整備の内容等については、地域の方の声や市役所内での協議を行いながら検討を重ね、取り組みを進めていきたいと考えております。なお、生産地区のうち沼ノ沢地区については、居住誘導区域を設定していることから、居住の誘導に関する取り組みと合わせて検討していきたいと考えております。

## ②持続可能な交通体系の維持

## ③地域コミュニティの維持

委員発言：高齢化や人口減少に伴い自治会等の維持が非常に困難である。

## ④公共施設の更なるスリム化と活用ストックの機能充実

## ⑤持続可能な行政体制の構築

委員発言：持続可能な地域であり行政体制の構築のためにも、市民と市職員が住みたいと思うような街づくりを考えていくことが重要だと考える。

市応答：財政再生計画による財政再建が実質的に完了する令和9年度以降、市政運営におけるまちづくり、産業、教育、福祉などを包含した総合計画の策定が求められるところです。市政懇談会などあらゆる機会を通じて市民の皆様のご意見を伺いながら、総合計画や第3期地方版総合戦略などの策定に取り組んで参ります。

委員発言：精神疾患等による休職者が多数いるとのことをよく耳にします。職場内の労働環境の見直し等が必要なのではないか。採用してもすぐに休職・退職してしまうのでは、いくら人材を確保しても今後の行政体制の構築は難しいのではないか。

市応答：全国の地方公共団体に向けた調査において、近年、メンタル疾患により長期休暇を取得する職員の数が急速に伸びており（国家公務員も同様）、大きな問題となっています。本市においても同様です。メンタル疾患は、個々それぞれの事情があり、職場内労働環境だけを論じれば解決できると単純に捉えることは難しい（そもそも効果のある一律の改善策はあるのか？）と考えます。一方で、職員においては『生き活きと』『やる気をもって』職場で働いてもらうことが一番であるので、行政に必要な人数確保に鋭意努力するとともに、他自治体の事例も参考にしながら職員の能力を伸ばすような人材教育・育成に尽力し、職員に悩みがあったら気軽に相談にのれる受け皿づくりに務めて参りたいと考えます。